



保存版
令和3年
5月発行

ポイント1 原則は早い段階で安全な場所へ
逃げ遅れたらその場そのときで最も安全な場所へ

早い段階で安全な場所へ避難することが大原則ですが、逃げ遅れてしまった場合には、その場そのときの状況で最も安全と思われる場所で身を守りましょう。

原則
早い段階で安全な場所へ

早い段階で安全な場所へ避難することが大原則です。

早い段階ってどんなとき？

- ◎事前に大型の台風や大雨が予想される場合
- ◎夜中に雨が降り続くと予想される場合
- ◎避難情報を聞いた場合
- ◎前兆現象などいつもと違う感じた場合

我が家の防災行動計画「マイ・タイムライン」を作成しましょう！

- 住んでいる場所や家族構成によって、災害時に取るべき行動やタイミングは異なります。普段から防災意識を高め、適切な避難行動を知るため、家族や地域で相談しながら、防災行動計画「マイ・タイムライン」を作成しましょう。
- ウェブサイト（京都市防災ポータルサイト）で作成できます。また、区役所・支所・消防署でリーフレットも配布しています。



裏面の土砂災害ハザードマップで自宅周辺、避難経路などの危険な箇所を確認し、早い段階の避難先と逃げ遅れたときの避難先を検討しておきましょう。

土砂災害の危険性のある地域にお住まいの方は、職場や学校など、外出先からの避難を考えてみましょう。

わたしの早い段階の避難先は？

雨・風が強くなる前、暗くなる前の早い段階で、安全な場所に避難することが大原則です。

○お住まいの学区の指定緊急避難場所

○小学校

土砂災害と洪水災害の危険性の低い地域の親戚、友人宅など安全な場所 記入欄

マップで確認して記入しましょう。



あなた、家族、地域の命を土砂災害から守るためにポイント

ポイント1 原則は早い段階で安全な場所へ
逃げ遅れたらその場そのときで最も安全な場所へ

ポイントを確認し、具体的な避難を考えましょう

ポイント2 情報にしたがい適切に避難

京都市

ポイント2 情報にしたがい適切に避難

土砂災害や洪水災害などの危険性が高まった地域には、避難情報が発令されますので、その地域にいる方は、早めに避難しましょう。しかし、局地的な雨の場合には、避難情報が出ない場合があります。避難情報が無くても、いつもと違う感じたら避難しましょう。

(警戒レベル3)
高齢者等避難

危険な場所から高齢者等は避難！
(避難に時間のかかる方とその支援者も含まれます。)

災害のおそれあり

※高齢者等以外の人も、必要に応じ、普段の行動を見合わせたり、自主的に避難しましょう。

雨が降り始める

いつとも違う
大雨や台風が
迫っている

いつとも違う
多くの雨が
降っている

いつとも違う
川が増水
している

いつとも違う
地域に異変
がみられる

いつとも違う
周囲に異変
がみられる

いつとも違う
前兆現象

いつとも違う
土石流が発生

いつとも違う
がけ崩れが発生

いつとも違う
みんなで協力して避難

いつとも違う
2階に避難

いつとも違う
避難支援

いつとも違う
避難行動を支援する

いつとも違う
高齢者等避難

いつとも違う
避難指示

いつとも違う
災害のおそれあり

いつとも違う
災害のおそれ高い

いつとも違う
災害のおそれあり

いつとも違う
災害のおそれ高い